

## 委員派遣報告書

総務文教常任委員会の委員派遣調査結果について、会議規則第 101 条の規定により、下記のとおり報告する。

平成 30 年 9 月 5 日

養父市議会議長 深 澤 巧 様

総務文教常任委員会  
委員長 政 次 悟

### 記

- 1 目 的 「大野市議会人口減少・若者定住対策特別委員会の取り組みについて」及び「平成 30 年北陸地方の豪雪時における大野市の危機管理対応について」の管外調査のため
- 2 派遣場所 福井県大野市
- 3 実施日 平成 30 年 8 月 6 日（月）
- 4 派遣委員 政次悟、藤原芳巳、津崎和男、谷垣満、西谷昭徳、西田雄一、深澤巧 以上 7 人
- 5 結果報告

(1) 大野市議会人口減少・若者定住対策特別委員会の取り組みについて

大野市は福井県の東端に位置し、西は福井市、北は勝山市、東南は岐阜県と接するまちで、面積は 872.43 ㎢、人口 3 万 3,735 人（平成 30 年 4 月 1 日現在）となっている。

大野市議会は、市の策定した総合戦略に基づく各種施策に対し、その実効性のある具体的な方策の調査、研究を行うことなどを目的に、平成 27 年 3 月に 8 人で構成する人口減少・若者定住対策特別委員会を設置し活動を行っている。

市の総合戦略では人口減少対策に特化した 5 年間（平成 27 年～平成 31 年）としており、具体的な将来目標人口として 2019 年に定住人口 3 万 2,100 人、2040 年に定住人口 2 万 7,000 人と定め取り組みを進めている。しかしながら、人口減少は目標値よりも早いスピードで進行していることから、地域活力の維持、増進に向けて、定住人口に交流人口を加えた「ふれあい交流人口」の目標値を掲げ、様々な施策を進めている。

今後の施策の方向性としては「安定した雇用を創出する」「新しいひとの流れをつくる」「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」の4つの柱に付随した8つの重点事業と81の重要業績評価指標（KPI）が設けられていた。これらの施策に伴い国から交付された地方創生加速化交付金は8,000万円、推進交付金は4,419万円、拠点整備交付金は2,604万円となっている。

なお、特記すべき移住・定住促進策として「中部縦貫自動車道整備事業・幹線道路網整備事業」と合わせた工業団地の整備が行われ、既にある5つの工業団地（41.7ha）に加え、平成28年度からは17.2haの産業団地（総事業費20億円）の整備が進められつつある。

また、プロジェクト事業に掲げる「大野へかえろう」では市外に暮らす4割の若者の地元への呼び戻しを狙っている。さらに、関係人口を増やすためのストーリー、豊富な水に感謝し水の恩恵を世界と分かち合うまちとして「水への恩返し」と題し、ユニセフとともに東ティモールへの給水施設の建設を支援している。これは、市民への誇りの醸成として次世代に届けようという取り組みでもある。

#### 〈まとめ〉

少子・高齢化に起因して全国的に進む人口減少は、地方にとってはより深刻かつ即座の解決策が見当たらない大きな課題となっている。視察先の大野市においても決して例外ではないと判断されるが、「中部縦貫自動車道整備事業・幹線道路網整備事業」の効果を生かせる産業団地の整備と地域産業の創設による働く場の確保や、企業誘致の推進、「観光・交流人口」を基幹においたまちづくりの推進策など做すべきものも多くあった。また将来的には西に延伸する予定の北陸新幹線の人的・経済的効果も期待される。

まちづくりに対する極意は、「まちの強みを見つけ出すことです」との言葉は、今後の養父市においても大いに参考にすべきところがある。

#### （2）平成30年北陸地方の豪雪時における大野市の危機管理対応について

本年2月4日から13日まで北陸地方に流れ込んだ強い寒気の影響により、大野市においても177cmの豪雪に見舞われ、屋根の雪下ろし中の転落事故で2人の尊い命が奪われ、20人の重軽傷者が発生したほか、住家を含む60棟の建物被害や道路・橋梁被害、文教施設、農業用施設など355施設に8,068万円の被害が発生した。

そうした状況から、市には2月7日から28日の間、大野市雪害対策本部が

設置され、雪害対策計画に基づく対応がなされた。この計画には除排雪の役割分担、道路除雪等基本計画、交通対策、消防対策、屋根雪下ろし対策、要配慮者対策、孤立集落対策、なだれ対策、電力・通信対策、庁内体制など 17 項目の内容が記載され、毎年 11 月に市民と国・県、市、電力・通信会社が一堂に会し、「大野市克雪市民会議」を開催し、情報の共有化が図られているとのことであった。

基本計画に基づく大野市内の道路の除雪体制は、車道は積雪 10 cm、歩道は積雪 20 cm が出動基準で、管理する 888 路線、361.6 km を 1 日 479 台の車両により冬期間中 43 日の出動があったとの説明であった。なお、これに伴う経費は道路除排雪で 8 億 5,135 万円、公共施設では 8,817 万円を要している。

住家、空き屋等の雪下ろしに対する施策も充実しており、自立排雪の不可能な方、ひとり暮らし高齢者、身体障がい者への手厚い制度が設けられていたが、特に各地区自治会や自主防災組織による地域単位での取り組みは尙うべきものがある。

#### 〈まとめ〉

視察した大野市にあつては、前記した雪害対策計画による情報の共有化の効果や民間事業者を中心とした強力な除排雪体制もあり、市内において交通停滞等が発生することは全くなかったとの説明であった。しかし、福井市等における交通停滞の結果、食品や燃料等の生活物資に不足が生じ市民生活に大きな影響が出たとのことである。

地球温暖化の影響も懸念される昨今、大雨、台風、高温など自然の驚異が感じられる養父市にあつても、種々の防災・減災計画の策定と合わせ、これら情報のより一層の市民周知の機会設定についても検討すべきものと考えられる。

最後に、防災格言として紹介された、中国故事に記されている 3 つの句をもって本委員会の報告のまとめとする。

- ・居安思危（こあんしき） 安きに居りて危うきを思う  
災害などのない日ごろから災害が起きた時のことを考えよう。
- ・思則有備（しそくゆうび） 思えば即ち備え有り  
災害が起きた時のことを考えれば、備えをすることができる。
- ・有備無患（ゆうびむかん） 備え有れば患い無し  
備えがあれば、いざという時にあわてることはない。